

ごあいさつ



皆さまには、平素より私ども足利小山信用金庫に格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

本年も当金庫の経営方針や事業内容、業績等へのご理解を一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌『足利小山信用金庫の現況2020』を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸甚に存じます。

2019年度のわが国経済は、大型台風による自然災害が相次ぎ、全国各地に甚大な被害をもたらした影響や10月の消費税引き上げに加え、中国で発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、インバウンド需要や個人消費が落ち込み中国からの部品や資材の輸入が滞るなどサプライチェーンへの影響が顕著となったことから、総じて低調に推移しました。

一方、金融業界においては、12月に金融庁より発表された「検査マニュアル廃止後の融資に関する検査・監督の考え方と進め方」では、金融機関との対話を重視した新しい検査・監督の実践に向けた取り組みが始まりました。

このような経済・金融環境の中、当金庫は期初に掲げた基本方針の実現に向け、意欲的に取り組んでまいりました。

今後の経営環境を展望いたしますと、地域の人口減少や中小企業数の減少により事業基盤の脆弱化が進行していることに加え、長期化している超低金利政策のもとで預貸金利鞘が縮小し利益の確保が一段と困難になり、厳しい状況が続いていくと思われまます。さらに今後、新型コロナウイルス感染症による日本経済への影響が懸念されるところであります。

しかしながら、このような厳しい環境の中にあるからこそ、営業地域が限定された協同組織金融機関である信用金庫にとって、地域やお客さまに価値ある課題解決策の提案と円滑な資金供給を通じて、好循環を生み出す持続可能な地域社会の発展に向け取り組んでいくことが最も重要な使命であると認識しております。

このような状況に的確に対処するため、中期経営計画の最終年度である2020年度においては、信用金庫の原点である「相互扶助」の経営理念に基づき、地域社会の発展をお客さまとともに目指すことにより、地域金融機関としての強固な経営基盤と確固たる地歩を確立し、中小企業の健全な発展、地域住民の生活向上および地域社会の繁栄に貢献してまいり所存でございます。

今後とも、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2020年7月

理事長

富田隆